

隠れた産地 小田原のイチゴ

明治 42 年から栽培されていた

イチゴは、江戸時代の末期にオランダから長崎に伝えられ、明治 21 年に福羽逸人博士が、新宿御苑でフランスから導入した品種から選抜し、日本最初のいちご品種「福羽」が育成されたのが始まりです。当初は、皇室献上用として門外不出でしたが、その後世にでることとなり、静岡の石垣イチゴでその地位を確立しました。小田原では明治 42 年頃、辻村農園で福羽イチゴいちごの栽培が行われていましたが、産地化には至らず、昭和に入って酒匂川流域の富水、栢山、下曽我地域で栽培が行われるようになりました。

(神奈川県「農業」参照)



小田原地域で栽培される主な品種

さちのか

果皮の色は濃い鮮赤で、果形は長円錐、果実の大きさはやや大きめ。ジャムやピューレにすると綺麗な濃い色になるが、その分、熟しすぎると黒ずんだ赤になりやすい。果肉はかなり硬く、輸送性、日持ち性に優れている。香りはやや強く、味は酸味が穏やかで、甘みとのバランスが丁度良い。他のイチゴに比べ、ビタミン C が多く含まれているとされている。

紅ほっぺ

果実は長円錐形で、『章姫』程ではないが、かなり大きくなるのが特徴。果実の中まで赤く、果心部分も赤い色をしている。果肉は『章姫』よりもやや固く、しっかりとした食感。甘みだけでなく酸味とのバランスも良くコクがあってとても美味しいイチゴ。近年、市内でも栽培量が増えている品種。

とちおとめ

果皮の色は鮮赤で、果形は『女峰』の特徴を受け継いで比較的整った円錐形。果実の大きさは大、果肉色は淡紅、果心の色は紅赤、果実の光沢は良く、果実の溝はかなり少ない。物によってややばらつきがあるが、比較的甘味酸味のバランスがよく、果肉も締りがある一方、果汁は十分にあって美味しいイチゴ。香りも収穫後間もないものは甘く強い香りが立つ。

AGRI WAYS ～数種類のイチゴ狩りが楽しめます！～

箱根、富士山、伊豆に行くその前に

都心から車で約 90 分、箱根に行く手前にある AGRI WAYS。

平塚だとイチゴ狩りした後に箱根に行くにはまた高速に乗らないといけないし、韮山だと箱根や富士山には戻るようだし…。そんな、「旅行は効率的に楽しみたい」という方におススメです！

イチゴ狩りはしたいけど、汚れるのは嫌だし、立ったり座って収穫するのは疲れるし…

高設栽培の AGRI WAYS は、園内がとてもきれいに保たれています。もちろん、駐車場やトイレも完備。

そして、イチゴが子どもの目の高さになるので、立ったまま収穫ができます。

そんな、「旅行を子どもや家族で 120%楽しみたい！」そんな方におススメです！

梅

みかん

オリーブ

イチゴ

畜産

産

水

稲